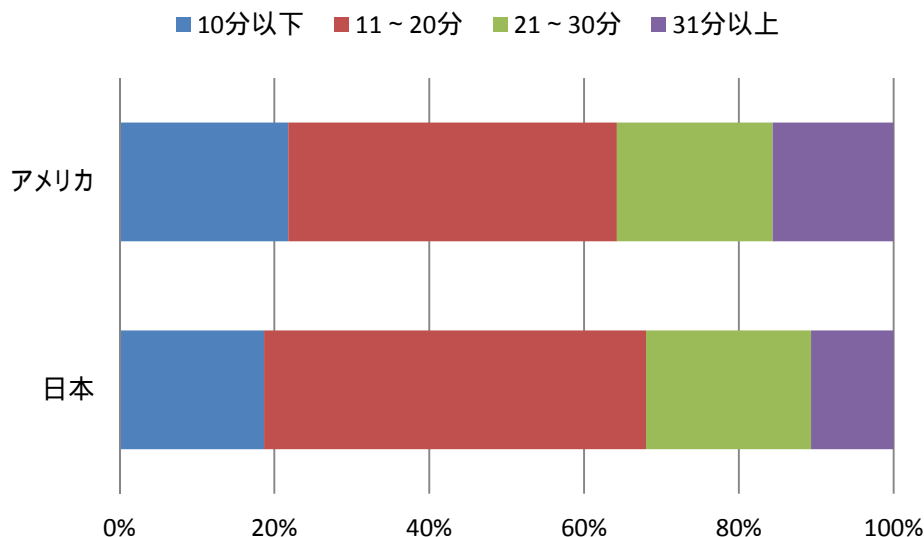


小学生の家庭学習：算数の宿題

小学5年生のお子さんとそのお母さんを対象にした調査によって、家庭での学習の取り組み方には、日本とアメリカとで同じ部分と、文化によって異なる部分とがあることが明らかになってきました。日本の親子75組と、アメリカの親子179組を対象にした調査の結果の一部をお伝えします。

算数の宿題に取り組む時間は日米で全く同じ

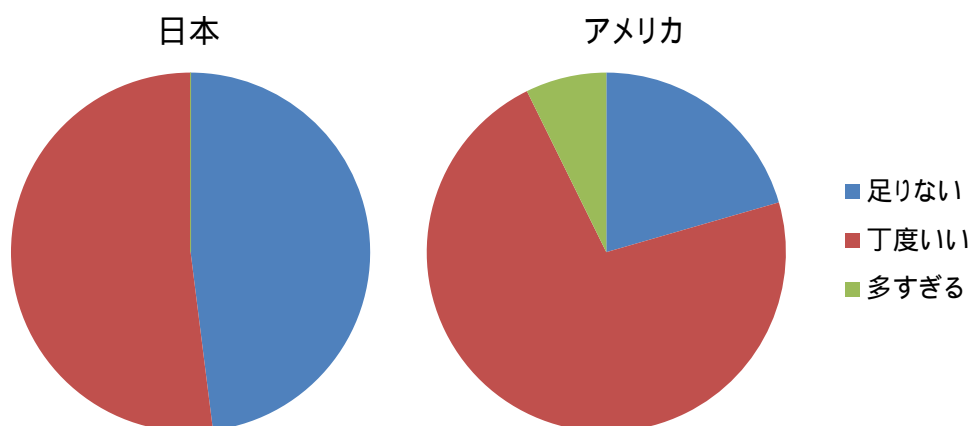
小学校5年生の子供は、どちらの文化でも一日に平均して約23分間、算数の宿題に取り組んでいました。それと共に個人差もありました。一日に10分以下しか算数の宿題をしない子供が20%いる一方で、一日に30分以上算数の宿題をする子供も10%ほどいました。



日本のお母さんの半分は算数の宿題の量が足りないと思っている

子供が宿題に取り組む時間は日米共に同じでしたが、大半のアメリカの母親は宿題の量が丁度いい量だと思っているのに対して、約半数の日本の母親は量が少ないと思っていました。日本の母親の方が、多くの家庭学習をすることを子供に期待しているようです。

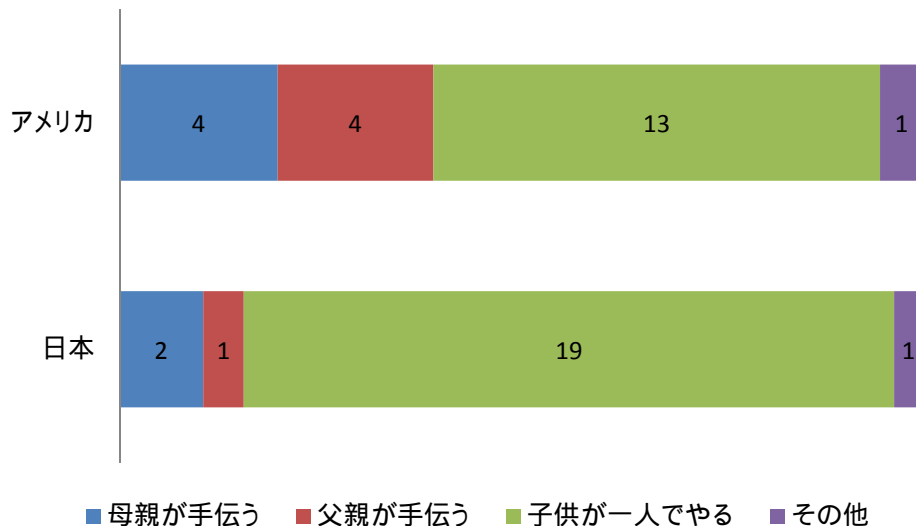
お子さんが持って帰ってくる算数の宿題の量は・・・



アメリカでは両親が算数の宿題を手伝い、日本では子供が一人で取り組む時間が長い

子供が算数の宿題に取り組んでいる間、誰が何分ぐらい宿題を手伝っているかを尋ねたところ、日本の子供はほとんどの時間、単独で宿題に取り組んでいたのに対して、アメリカでは、母親と父親が平均してそれぞれ一日4分間ずつ子供の宿題を手伝っていました。日本では母親が平均して一日2分間手伝っており、父親はほとんど手伝っていませんでした。

子供が宿題をしている時、誰が何分間手伝っていますか？(分数/日)



文化間で異なる親子像：期待しつつ離れて見守る日本、両親の関与が多いアメリカ

今回の調査を通じて、親の宿題に対する期待や関与の仕方が文化間で異なっている様子が浮かび上がってきました。日本では親は、子供が多くの宿題に取り組むことを期待している一方で、宿題自体は直接手助けしないで離れて見守っている様子が伺えます。それに対してアメリカでは親は、子供に多くの宿題をすることを期待しない一方で、宿題をするときには両親共に直接手伝うことが多いようです。

小学生の家庭学習共同研究チーム

調査主体：

京都大学教育学部教授 楠見孝

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi/>

ウィスコンシン大学心理学部准教授 宮本百合

<http://psych.wisc.edu/faculty/bio/kmMiyamoto.html>